

# 地方経済情報 Weekly No.227

## “新しい生活様式”への転換と事業活動 ～「After Corona(コロナ後の世界)」にも適した事業とは～

### 1. “新しい生活様式”への転換

本県で新型コロナウイルス感染症への緊急事態宣言が解除されてしばらく経ちました。しかし、不要不急の外出自粛や営業施設の休業要請などで日常生活や経済活動が受けた影響は非常に大きく、熊本地震での物的被害とは違った側面に及んでいます。緊急事態措置では「徹底した行動変容の要請」による「身体的距離の確保」等の基本的な感染防止策が必要でした。その解除後では更に従来の生活から「新しい生活様式」への転換が求められています(図表1)。

### 2. 業種ごとの感染拡大予防ガイドラインを实践する事業活動へ

また事業活動においては、業種ごとの団体が作成したガイドラインを实践し、マスクや目や顔を覆う防護具の装着で感染リスクを下げる等の働く方々が安全かつ安心して働ける環境づくりが必要となります。また、可能な限りテレワークや時差出勤、自転車通勤等の人との接触を減らし、職場では「3つの密」の状態を避けた感染防止への取組みも求められています。

### 3. コロナ禍に負けない事業展開に取り組む県内事業者

コロナ禍により県内事業者の多くが非常に厳しい経営状況に直面していますが、そうした中でも「新しい生活様式」に合致した分野へ事業展開を図る事例も現れています(図表2)。感染状況が収束してもしばらくは感染症との更なる闘いや「共存」が継続するとみられています。市民生活が従来よりも衛生管理の強化を重視する動きになれば、その観点から新たな需要やビジネスチャンスが生まれてきます。自社の従来の事業や資産を活用した新機軸の分野に踏み出すことで、「After Corona」でも事業活動の継続・発展が実現されることが期待されます。

[図表1] 「新しい生活様式」の実践例【抜粋】

◎ 一人ひとりの基本的感染対策 ○ 感染防止の3つの基本 ①身体的距離の確保 ②マスクの着用 ③手洗い ・ 人との間隔は、できるだけ2m(最低1m)空ける ○ 移動に関する感染対策 ・ 帰省や旅行はひかえめに、出張はやむを得ない場合に	◎ 日常生活の各場面別の生活様式 ○ 買い物 ・ 通販も利用 ・電子決済の利用 ・レジでは前後にスペース ○ 公共交通機関の利用 ・ 混んでいる時間帯は避けて ・徒歩や自転車利用も併用 ○ 食事 ・ 持ち帰りや出前、デリバリーも ・対面ではなく横並びで着席 ○ 娯楽 スポーツ等 ・ 筋トレやヨガは自宅で動画を活用 ・狭い部屋での長居は無用
◎ 日常生活を営む上での基本的な生活様式 ・ こまめに換気 ・「3密」の回避(密集、密接、密閉)	◎ 働き方のスタイル ・ テレワークやローテーション勤務、時差通勤 ・オフィスは広々と ・ 会議はオンライン ・対面での打ち合わせは換気とマスク

資料:厚生労働省「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」(2020年5月4日)から当研究所で作成

[図表2] コロナ禍にも適した事業を見出す県内事業者の例(以前から準備していた事例も含む)

業種	コロナ禍発生前からの事業	コロナ禍による影響	新規事業・商品
酒造メーカー	清酒・焼酎の製造販売	消毒剤不足、飲食店の営業自粛で販売急減	消毒用エタノール不足に対応し、代替品となる高純度アルコール蒸留酒を製造販売
染物工場	祭り・イベント用の半纏・和手拭い・Tシャツ等の注文生産	開催予定の祭り・イベントの中止で受注喪失	手縫いマスク用の木綿生地での染色作業を受注
アンティーク家具販売	英製アンティーク家具・建材等の販売・レンタル	営業自粛、衛生管理強化に来店を予約制へ	店舗倉庫を起業家・クリエイター向けの少人数貸ワーキングスペース(商品も利用可)に活用
生産設備向け機械、部品製造	生産機械、樹脂性安全カバーや半導体部品等の製造	「抗ウイルス」へ関心が高い顧客からの要望	飛沫感染防止用の透明パーティション器材を商品化
収納機器製造、住宅設計販売	移動式収納設備製造、戸建住宅の設計販売		抗ウイルス・抗菌作用のある塗布剤を使用したオフィス機器・家具・ドア・床等を商品化

資料:熊本日日新聞記事、各社HP、ならびに当研究所の調査により作成

担当:主任研究員 漆嶋